

情報通信審議会 情報通信技術分科会 局所吸収指針委員会
局所吸収指針作業班(第1回)・比吸収率測定方法作業班(第1回) 議事要旨(案)

1 日時

平成21年9月4日(金) 10時00分～11時30分

2 場所

総務省第1会議室(総務省10階)

3 出席者(敬称略)

(1) 局所吸収指針作業班 構成員

多氣 昌生(主任)、上村 佳嗣(主任代理)、池畑 政輝、牛山 明、
小島 正美、佐藤 康仁、城内 博、花島 律子、平田 晃正、藤原 晴海、
西方 敦博、和氣 加奈子

(2) 比吸収率測定方法作業班 構成員

渡邊 聡一(主任)、篠塚 隆(主任代理)、安達 勝、荒木 浩一、伊藤 亮、
大西 輝夫、大山 真澄、岡部 薫、金山 佳貴、君山 潤子、小松崎 剛、
鈴木 能成、富樫 浩行、戸田 善文、袴田 英則、濱田 リラ、百成 卓三、
松浦 長洋、溝部 達克、矢野 陽一、吉長 寿

(3) 事務局

齊藤電波環境課長補佐、稲垣係長、川名官

4. 議事

(1) 情報通信審議会への諮問等について資料－指針・測定1－1に基づき説明があった。

(2) 作業班の運営方法について資料－指針・測定1－2に基づき説明があり了承された。また、局所吸収指針作業班の主任代理として上村構成員、比吸収率測定方法作業班の主任代理として篠塚構成員が指名された。

(3) 局所吸収指針の概要について事務局より資料－指針・測定1－3に基づき説明があった。

(4) 比吸収率(SAR)測定方法の概要について渡邊主任より資料－指針・測定1－4に基づき説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

小島構成員：測定条件では周囲温度が18℃から25℃の範囲内とあるが、外気温が30℃の場合等はどう考えれば良いか。

渡邊 主任：局所吸収指針の値については、国際ガイドラインと同じ値となっている。

多氣 主任：無線設備については18℃から25℃で測定することとなっているが、これを超える温度範囲については不確かさの範囲内と考えられる。

佐藤構成員：SAMファントムは東洋人へも適用出来るのか。

渡邊構成員：SAMファントムは東洋系の欧米人のデータも含まれている。なお、SAMファントムは日本人データによるファントムより大きな形状であるため、より安全な評価が出来る。

牛山構成員：今回の答申の範囲は、3GHz以上のどこまでの周波数について考えるか。

多氣 主任：IECでは6GHzまでを対象としているので、6GHzが1つの目安になる。

君山構成員：現在の測定方法は、小さな子供に対しても考慮されているか。

渡邊 主任：数年前FDA(米国医薬食品局)が中心となり、評価を行った結果SAMファントムを使えば小児ファントムより安全な評価が出来ることがわかっている。

藤原構成員：携帯電話等を電車内で使用したり高圧線の近くで使用した場合、周辺環境を考える必要はないか。

多氣 主任：電車内で複数の人が携帯電話を使ったとしても携帯電話から少し離れば人体全身が吸収する量は非常に小さくなるため影響はほとんどないと考えられている。また、高圧線の近くで使用した場合でも、携帯電話のみを考えれば良く、周辺環境は考える必要はないと考える。

池畑構成員：頭部以外も検討対象であるか。

多氣 主任：局所吸収指針は、頭部のみならず全身を対象としている。

渡邊 主任：評価方法は国際規格化を考慮して定める予定。現在、IECでは頭部以外の測定方法が定まりつつある。

(5) 審議スケジュールについて

事務局より、資料一指針・測定1-5に基づき審議スケジュールについて説明があった。

(6) その他

次回作業班の開催日程は別途調整の上、事務局より連絡することとなった。

【配付資料】

- 資料一指針・測定1-1 諮問等について
- 資料一指針・測定1-2 作業班の運営方法(案)及び構成員について
- 資料一指針・測定1-3 局所吸収指針の概要について
- 資料一指針・測定1-4 比吸収率(SAR)測定方法の概要について
- 資料一指針・測定1-5 審議スケジュールについて